

令和6年度 江津市立高角小学校 学校評価

- めざす子ども像
- たのしみ子...一人ひとりが学校生活を楽しめる子であってほしい！
 - かかわる子...ひと・もの・こととの関わりを喜び・楽しんでほしい！
 - つづける子...努力を続けることを楽しみ、達成することを喜んでほしい！
 - のびやかな子...自分・友だちが緩やかにつながり、のびのびと生活できる時と場を創り、成長してほしい！

- 評価の基準
- 1:ほとんど達成できていない
 - 2:3~4割程度達成できた
 - 3:5割程度達成できた
 - 4:6~7割程度達成できた
 - 5:ほぼ達成できた

学校教育目標 「豊かな心とたくましさをもち、確かな学力を身につけ続ける子どもの育成」

学校経営目標 「一人一人が主役 みんなが創る 高角小学校」

取組の重点	重点項目	目標達成のための計画((成果・取り組み指標)		評価	○成果と●課題	改善策	児童アンケート項目	保護者アンケート項目	地域アンケート項目	運営協議会意見
		具体的方策	評価の観点							
学力育成	表現力(伝え合う力)を育てる授業づくりに取り組む。	ねらいや実態に応じた、ペア学習、グループ学習を生かし、全体で伝え合う場での表現力を高める。	学級全体に自分の考えを伝えたり、相手の考えを聞いて反応したりする姿が多く見られるようになったか。	3.7	<ul style="list-style-type: none"> ○ペア学習、グループ学習に取り組んでから、全体へ考えを広げたことで学習の深まりを感じた。 ○タブレットのワードやメモ機能をつかったり、付箋紙などに自分の考えや調べたことをメモしたりして、伝え合う場に活用したことで、グループで話し合うことが上達した。 ○タブレットに自分の考えをまとめ、それを全体でも見える化したことがよかった。 ○自分の考えや思いを発表する、発表しようとする児童がふえた。自分の考えと比べながら聞くようになった。 ●人の話を最後まで聞く、友だちの考えに反応する、みんなの前で大きな声で話すなど基本的な姿勢の指導が必要。 ●発言力のある児童に頼ってしまう。 ●説明する言葉がまとまらない。 ●ペアやグループ学習が、全体へ広げることの練習や相手の意見の請負いだけになっていないか、少人数で話し合うことが、互いの思いや考えを深める場になれば、表現力も高まると考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年度はじめに、学校全体で学習規律の指導について確認する。 ・話型等を使って発表や表現の仕方を身につけさせ、根拠を持って話ができるように指導する。 ・人の話を考えながら聞くことをしっかりと指導する。 ・教師が、一斉の場で児童が自分の考えを持っているのか確認したり、話し合い伝え合いの場に入ったりして指導する。また、児童が自分の思いや考えが持てるような学習計画を立てる。 ・表現力をつけるためには、書く力(自分の考えを筋道立ててまとめる)と読み取る力(必要な情報を選び出す)もつけることも大事であるため、「話す・聞く・書く・読む」力がバランスよく育成できるよう学習計画を組んでいく。 ・先進校の取組や他校の研究の取組を実際に見に行くことを通じて授業改善に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の内容はよくわかった。→92% ・話し合いで、自分の考えを進んで話した。→86% ・自分の考えを説明するとき、わけも言うようにした。→73% ・話し合いで相手の話をしっかり聞くことができた。→92% ・授業で友だちの考えを聞くと、自分の考えの参考になった。→94% ・「ペア・グループ・全体」で自分の考えを説明したり、発表したりした。→87% ・タブレットに毎日電源を入れて、ドリルや文字入力、カメラなどを使うことに慣れてきた→88% ・家庭学習はできた。→87% 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容が身に付くように、学習指導を行っている。→89% (わからない7%) ・「ペア・グループ・全体」で自分の考えを説明したり、発表したりした。→87% ・タブレットに毎日電源を入れて、ドリルや文字入力、カメラなどを使うことに慣れてきた→88% ・家庭学習はできた。→87% 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの学習内容が身に付くように、学習指導を行っている。→73% (わからない27%) ・子どもたちの学習内容が身に付くように、学習指導を行っている。→73% (わからない27%) ・一方で、タブレットとタブレットケースの取り扱いが雑だったり、学習とは異なる使用をしたりすることがあったのに注意した。→学校でも引き続き指導していく。角っこ広場でも話していきたい。 ・キャリアパスポートの児童アンケートで、「自分を振り返ることができている」ことに数値が高いのがうれしい。 ・ふるさと教育では、歴史を学ぶだけでなく、今それを残そうと取り組んでいる人たちの努力や思いを知ることが重要だと思う。将来故郷を自慢してくれるようになってほしい。 	
	ICT教材を利用した学習活動を積極的に推進する。	ICT情報活用能力に関する系統表に基づき、学習にICTを取り入れる。	児童に情報活用能力が育っているか(情報活用能力に関する系統表に基づき)。	4.2	<ul style="list-style-type: none"> ○どの学級、授業でもICTを積極的に使おうとする取組が行われ、この1年でICT活用がとて進んだ。 ○全員がタブレット活用を毎日行うことができた。多くの教科でICT教材が意欲的・計画的に取り入れられ、児童も意欲的に取り組んだ。その結果タイピングが上達したり、様々なソフトや機能に慣れたりして情報活用能力が育っている。 ○研究職員会の中で、ICTをどのように使っているのかを情報交換したのも参考になった。 ●「ICT情報活用能力に関する系統性」を意識した指導ができなかった。 ●いろいろな挑戦してみたが、ほかにも授業の中でのような活用方法があるのか探っていく必要がある。 ●ICTを使って宿題を出し、チェックしてから直しをさせるという流れが難しかった。紙媒体のものがスムーズに行えたと感じた。 ●操作方法の説明やタブレットの準備(電源やファイルを開く作業)に時間がかかり、予定した時間より多くかかってしまった。(だんだん短くなってきている。) ●全員がすらすらと使えるようにはなっていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用した授業ができるように研修を進めていく。 ・タブレットと紙媒体の宿題とバランスよく使えるようになることよ。 ・使うことに慣れる。いろいろな機能を試してみる。 ・タブレットやソフトの必要性を見出していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ペア・グループ・全体」で自分の考えを説明したり、発表したりした。→87% ・タブレットに毎日電源を入れて、ドリルや文字入力、カメラなどを使うことに慣れてきた→88% ・家庭学習はできた。→87% 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの学習内容が身に付くように、学習指導を行っている。→73% (わからない27%) ・子どもたちの学習内容が身に付くように、学習指導を行っている。→73% (わからない27%) 		
ふるさと・キャリア教育	自己を見つめるキャリアパスポートを活用する。	キャリアパスポートを利用して自分を見つめる場を持つ。学びの蓄積と振り返りを行う。	キャリアパスポートの活用が、児童一人一人の学びの蓄積と振り返りに役立ったか。	3.5	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の方に協力していただき、地域の歴史や発展に尽くしてきた方たちの思いや願いなどを知ることができた。そして、自分ができていることを考えることにつながった。 ○行事や活動、各学期ごとに振り返りをする時間を設定した。自分の頑張りがや良さ、友だちの良さなどにも少しずつ気付いているような文章が出てきた。 ●学期末だけの振り返りとなってしまった。 ●キャリアパスポート自体を使つての振り返り、活用とはならなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容が多いこともあるので、総合的な学習の時間を始め、全体を見通して、学習の内容を精選していくことが必要である。 ・中間期にキャリアパスポートでの振り返りをする中で、自分を見つめなおし、よりよく過ごしていこうとする態度につながる。活用の計画を立てる。 ・児童のキャリアパスポートにコメントを返していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと(島根・江津・嘉久志・和木)のことを勉強して新しいことを知ることができた→91% ・キャリアパスポートで、自分のことを振り返ることができた→89% 	<ul style="list-style-type: none"> ・嘉久志・和木の地域やふるさとのひと・もの・ことを生かした学習を行っている。→80% (わからない18%) 	<ul style="list-style-type: none"> ・嘉久志・和木の地域やふるさとのひと・もの・ことを生かした学習を行っている。→87% (わからない13%) 	
人権・同和教育	「なぜ？」と背景を考えるとともに、自分や友だちの良さを認め合う場を意図的に設定する。	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科の学習や学級活動の中に、互いに関わり合い、理解し合う場面を設ける。 ・人権週間を中心に、人権に関する学習内容の授業公開を行い、保護者と共に関心意識を高める。 	お互いを認め合い、友だちとの良い関係を築こうとしているか。	4	<ul style="list-style-type: none"> ○人と良いかわりができるよう、様々な活動の中で、理解し合う場、お互いを大事にし合う場、友だちの良いところを認め合う場などを意識して設けた。 ○折に触れて自分や友だちを大切にするための声掛けや指導が行われてきた。 ○それぞれの特性を体験的に理解しはじめ、それぞれの違いを認めるようになってきた。 ○「人権集会」を通して、相手の気持ちを考えたり自分の良さに気づいたりすることができた。 ○生活目標「相手の気持ちを考えた言葉遣い、行動」を児童会が中心となって、全校で取り組むことができた。 ●呼び捨てや、友だちや教職員への言葉遣いが気になる。学んでいても言動にうつすことが不器用な児童がいると思う。 ●自分さえよければよいという言動がみられることがあった。 ●意味を知らずに使っている言動があり、友だちを傷つけていることがあった。 ●人権に関する参観日を実施できなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分自身が人権感覚を失わないようにし、子ども同士のかかわり方について指導できるようにしていく。 ・具体的な事例やモデルを繰り返し提示する。 ・一人一人の良さを見つけ認めるとともに、全体の中で活躍できるように支援していく。 ・学級全体の空気を穏やかにする。話をしやすい環境や雰囲気や学級の中で作っていく。 ・人権的に問題がある事象が見られたら、どんな小さなことでも機を逃すことなく、毅然とした態度で指導する。知らずに使っている言動は、その時に抑え、きちんと教え、指導する。 ・参観日の授業についての年間での見直しを持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちと楽しく過ごせた。→93% ・困ったり悩んだりしたとき、友だちや先生に相談して安心した。→89% ・友だちが困っているとき、声をかけたり助けたりすることができた。→92% 	<ul style="list-style-type: none"> ・トラブルやいじめに適切な対応を行っている。→61% (わからない31%) 		
高角のふるまい	廊下歩行・あいさつ・返事・言葉づかい・掃除・はきものそろえに重点をおき、互いに気持ちよく過ごせるようにする。	安全な廊下歩行は年間を通して、あいさつや言葉づかい・掃除・はきものそろえ・廊下歩行については強化期間を設定し取り組む。	年度末子どもたちのアンケート結果からあいさつ・返事・言葉づかい・掃除・はきものそろえ・廊下歩行についてよくなったか。	3.8	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒指導部で、重点項目を決め、強化期間を設定して様々な取組をしたこと、生活目標や月ごとに心がけたいワードを設定し、校内放送等で目指すべき理想の姿を具体的に示してもらったことで、児童の意識が高まりつつあると感じた。 ○トイレのスリッパがずいぶんそろってきたと感じている。 ○廊下歩行について、徹底して呼び掛けしてきたことから高学年や友だち同士で注意したり声を掛け合う姿が見られた。 ●あいさつはできる子とそうでない子がいる。個人の特性なども関係すると思うが、少しずつでも声が出るようにしたい。 ●安全な廊下歩行は、危険な場面が減ってきたが、継続的に指導が必要。 ●言葉遣いの悪い様子が減ってきたが、継続的に指導していくことが必要。 ●持続することが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全教職員が同じ考えで指導する。やがては上級生の態度が手本となるとよい。 ・教師自身が手本となるよう意識的に率先してあいさつや感謝の気持ち表現していく。 ・細かく声をかける。危険なことについて繰り返し伝える。 ・根気強く声掛けを行い、できているところは認めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・明るく、いつも進んであいさつができた。→87% ・「廊下は歩く」など、学校生活のめあてを守って生活できた。→81% ・手洗いやうがいをして健康的な生活ができた→90% ・休み時間に、体を動かして遊ぶことができた。→87% 	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつが向上するための取組を行っている。→69% (わからない22%) 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校が行っているふるまい向上の取組により、子どもたちのあいさつは向上している。→87% (わからない10%) ・子どもたちの地域での生活の様子から、交通ルールを守ることや危険な遊びをしないなど、安全に生活している。→87% (わからない13%) 	

取組の重点	重点項目	目標達成のための計画((成果・取り組み指標)		評価	○成果と●課題	改善策	児童アンケート項目	保護者アンケート項目	地域アンケート項目
		具体的方策	評価の観点						
教務部	学習環境を整える	子どもの学習・活動がみえる校内掲示づくり(季節ごと、随時に更新)	季節ごと、随時に校内掲示を更新することができたか。	4	○2学期以降、写真掲示するものを計画を立て、教務部全員で更新するようになった。 ●行事等で忙しい時期になると後回しになってしまった。	・掲示だけでなく、教務にかかわることについて分掌部会を定期的にするなどよい。			
		朝活動の充実努め、落ち着いて1日をスタートする。	静かに、落ち着いて朝学習に取り組めたか。	4	○おおむね静かに朝学習に取り組んでいる。 ●学級によって朝学習の内容がまちまちである。読書時間が減少している傾向にある。統一していきたい。	・読書、ICTなど、全校で内容を統一する。			
研究部	基礎学力の向上	計算・書き取り会を実施する。	計算・書き取り会の合格者率が8割以上だったか。	4	○宿題をしてくる児童は、宿題としてはする。した分だけ、得点には繋がって励みになっている。 ●宿題をしていない、やり方に課題がある児童は、得点には繋がっていない。 ●計算会については、ドリルがない分、プリントで対応はしたが、子どもたちが学習する上で、ドリル(紙面のもの)が常に手元にない状態だと力を定着させるには難しさがあった。	・タブドリやnavimaは継続して使用するが、学力定着を図るためには、ノートに繰り返し書いて解く等紙面を活用した取組も並行していくことも検討する。 ・途中から、書き取り会、計算会の間隔を1週間開けて行った。再テストのことを考慮すると、その方が良かったので、来年度もその方向で計画を立てる方がよい。			
		家庭学習のがんばりや良い取り組みを紹介する。	家庭学習に進んで取り組んだ児童が増えたか。	4	○自学を出すと、どんどん進める様子が見られた。宿題はまじめに取り組んでくる児童が多くなった。児童アンケートからも家庭学習への意識が高まっていることがうかがえる。 ●家庭学習に限定したことで、がんばりや良さを紹介することは難しかった。	・職員では、「家庭学習」だけでなく、「日々の学習の取り組み」として紹介するフォルダを設けた。うまく機能しなかったため、来年度活用できると参考になりそうである。 ・基礎学力の向上としての具体的方策は、来年度見直しを行った方がよい。			
	子どもの考える力を育てる授業づくり	日々の教材研究や授業改善による学び合い	教職員や児童のアンケート等を参考にしながら授業改善や教材研究を行うことができたか。	5	○教科書が変わり、ICT活用学習の取り組みも入り、それぞれに日々試行錯誤しながら授業を行ってきた。研究委員会や研修を通して、取り組んできたことをグループや全体で共有したり、相談したりしながら取り組むことができた。 ○全職員でICT活用にも臨むことができた。 ●できるところで行ってきたが、学び合う時間、学び合う場を取ることが難しい。	・職員では、「家庭学習」だけでなく、「日々の学習の取り組み」として紹介するフォルダを設けた。うまく機能しなかったため、来年度活用できると参考になりそうである。 ・基礎学力の向上としての具体的方策は、来年度見直しを行った方がよい。			
総務部	業務改善を進める	デスクネットのさらなる活用 ルーチン化の定着	デスクネットの活用が定着したか。	4	○回覧レポート等の活用が進んだ。 ●回覧レポートを未読の確認が難しかった。まだ読んでいない、読んでいても未読のままであったりした。緊急性のあるもの、重要なものもあるので周知徹底を目指したい。	・回覧レポートの未読、既読の確認を行い、未読の教職員については確認を促す。また他のデスクネットの便利な機能等を確認して教職員に共有する。			
		業務の精選・見直し(事務処理がスムーズにできるよう内容の見直しを進める)	業務の精選や見直しが進んだか。	4	○各会計や保護者配付文書の見直し、tetoruの活用など教職員と相談しながら、見直しを持って取り組むことができた。 ●2in1パソコンやネットバンキング等への移行となり、さまざまな課題が出てくるのが予想されるので、対応をしていきたい。	・日々更新されていくデータ保存やパソコン作業、事務処理について、教育委員会や他校とも連携を深め、適切に進めていく。			
	環境整備に取り組む	校内環境整備:生活しやすい、学習しやすい場にするために、計画的に修繕や予算要望を行う。	校内の環境整備が進んだか。	4	○校内の職員室前倉庫、校長室前、事務室の確認をして不要なものを処理したり、同じ用途のものをまとめて取り出す等環境整備を進めた。	・継続して計画を立てて、できるところから校内の教職員と協力して、校内環境を整えていく。			
		職員室・パソコンデータの整理整頓を進め、働きやすい環境にする。	働きやすい環境になっているか。	3	●データの整理を進めてきたが、年度末に2in1パソコンとなり、さまざまな課題が出てくるのが予想されるので、対応をしていきたい。	・日々更新されていくデータ保存やパソコン作業、事務処理について、教育委員会や他校とも連携を深め、適切に進めていく。			
指導支援部	児童一人ひとりがきまりを守り、安心して安全な学校生活を送れるようにする	生活目標と達成のための手立てを各委員会が考え、全校に呼びかける。	委員会活動によって、生活目標が達成することができたか。	3	●各委員会が連携し全校一斉のめあてを実現させる取組を考えたことは有効だったこともあったが、目に見えての変化は少なかった。 ●廊下歩行については、子ども同士で声かけをしている姿は少し増えた。アンケートの児童の意識と実際の姿は、少しかけ離れているように思う。	・児童会活動と生活目標や重点目標との関連を図り、委員会活動の中で児童主体の取組を検討していく。 ・廊下歩行については、継続して呼びかけ、指導を進めていくとともに良いことできたことを全校に伝える。			
		月末に学級で生活目標の振り返りを行い、昇降口に掲示する。	月ごとに生活を振り返り、生活改善できたか。	3	●もう少し振り返りが次へ生かせるようにする必要がある。	・各学級の取組や良い実践、児童の感想等を放送で紹介する、学級便り等で保護者に伝える等振り返りの周知を行う。			
	児童の多面的な情報を集め、有効な支援を行う	毎回の職員会議で、気になる児童の実態やかかわり方の情報を出し合い、職員全体で共有する。	児童が安心して学校生活を送っていると感じているか。	3	○毎回ということは難しかったが、担任から情報を共有したい児童については、積極的に伝えてもらうことができた。				
		日頃からの実態把握や、より良い関係づくりに意識して取り組み、教育相談習慣を活用して児童の実態を整理する。	教育相談を通して、児童一人ひとりの理解が深まったか。	4	○教育相談は、担任にアンケートをもとにしっかり吸い上げてもらった。相談後の対応もされており、学期末の問題行動報告の際にも対応などをまとめることができた。 ●教育相談での内容や気になる児童の様子について日々メモ程度でもよいので残していけるとよい。	・時間的に難しいが、教育相談で出た内容を、校務支援システムの機能を活用する等保存していく。			

・学校は、情報を公開し、様子を伝えている。→100%